

テーマ「年間読書計画」

■いつか読む…？

「うちの子、なかなか読書をしないで…」
保護者様からそんなお声を耳にします。
「読書は自然にするもの」と言っていますが、
いつまでもなかなか読書はしないでしょう。
「いつか読む」はいつまでも読まないの
かな？とってしまいます。（それは大人も
同じかも…。）

読書ができるようになるには、読書に対する「攻めの姿勢」が必要です。もちろん、年齢が低ければ、周囲の大人がそのアシストをしていく必要があります。では、どのような「攻めの姿勢」、アシストが必要なのでしょう。

■今月は何を読む？

月単位で読む本を決めておく

夏休みになると、読書感想文が宿題として出されます。そのたびに、書店や図書館へ行って読む本を探していませんか。そのような作業から解放されたいのであれば、すでに本を読んでおけばいいのです。毎月2冊、3冊読んでおけば、夏休みまでに何冊読むことができますか？読んだ本の中から感想文が書けそうな作品をもう一度読み直せば、理解も深まるのではないのでしょうか。

月単位で読む本の冊数が決まれば、年間の読書量も増え、読書の質も高まるでしょう。

■読む本の冊数を決める！

次に読む本を予め決めておく！

「まずは1冊から」と本を読む姿勢がちょっと出てくれば、それ自体が大きな進歩であることは言うまでもありません。ただ一方で、その1冊が読み切れないという場合もあります。

同時に2冊も3冊も読むことができませんが、予め3冊ぐらい読んでおきたい、読むべき本を決めておけば、もし仮に1冊読み切れない本があっても、次の本へと進むことができます。まずは冊数で「攻めの姿勢」をもってみてはいかがでしょうか。

■年間読書計画を考える

ジャンルをまたでいろいろな本を1年でどれだけ読める？

どの月からスタートしてもかまいません。そこから1年かけてどんな本を読んでいくか計画を立ててみませんか？

小説・物語だけにこだわる必要はありません。ジャンルをまたでいろいろ読んでみればいいのです。教科書の読書案内の本を年間で読み切るのもいいでしょう。インターネットで作品を調べて読みたい本リストを作るのもいいでしょう。1年間がんばってみませんか？

■読む本のリスト化

読む本への意識付けが必要！

読書には継続性が必要です。1冊ずつ読み、さて一息といきたいところですが、読書を習慣化させるのであれば、次はこの本というようにある程度決めておくことで読書の連続性が出てきます。

そのためにはまず何を読むかをリスト化しておくといいでしょう。受験を控えているのであれば、入試頻出の作家さんの作品をリスト化するという手もあるでしょう（ネット上に情報として手にはいるはずですが。）そこはアシストが必要かもしれません。

■まとめ

読書の先に成長がある！

1. 冊数で攻める読書！
2. リスト化で意識付け！
3. 読書計画で読書の質を担保する！

読書が苦手な人には読書は苦行の何物でもありません。苦行からの解放に必要なことは、読書の先を示すことです。リスト化や計画によりひとまずの区切りを付けることができます。区切りといってもそこで終わらないのが読書です。多読を通して、いろいろな内容と出会い、自分の成長につながれば、爽りは必ずあります。